

令和5年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 親和会	代表者	山崎幸男	法人・ 事業所 の特徴	利用時間・サービス内容を定めることなく、通い・泊り・訪問を利用者様のニーズに合わせ柔軟に対応している。 在宅を重点に置き、家族と疎遠にならないよう調整を図りながら、家族の休息も取り入れるよう泊りサービスを提供し、利用者様が穏やかに生活できるようなサポートを心がけている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 恵みの里 眺望	管理者	中村小夜子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	3人	1人	1人	人	人	5人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員の意識づけができた。今後も、四半期ごとに自己評価を行い、「出来ていない点」を減らせるように意識し、業務に活かす。	自己評価を行い、出来ていない点を把握し減らせるように努めた。	事業所内で楽しいと思ってもらえればそれでいいと思う。外のことはそれからでいい。 職員の取り組みはちゃんと見えている。	今後も四半期ごとに自己評価を行い、よりよいサービスにつなげるよう、努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者が快適に過ごせるよう室内外の環境を整備する。	利用者様と共に環境づくりに取り組み季節を感じる暖かい環境づくりが出来た。 屋外の環境整備も行った。	利用者とともに温かい環境づくりがなされている。 現在のしつらえ、環境を継続してもらえると良いと思う。	利用者様と共に明るく快適な環境づくりに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	地域貢献活動は、ベルマーク集めも取り入れ、行っていく。外部からの交流も、その都度状況をみて、できる限り受け入れていく。	運営推進委員の方と一緒に山田小学校の窓拭きを行った。 ベルマーク集め、雑巾の寄付を山田小学校へ届けた。	日常の業務で忙しいと思うが、事業所の維持には地域との交流は欠かせないと思う。 地域の集まりに参加して、事業所のPRをしても良いのではないかな。 地域との取り組みは実施されている方だ。 単発的で時間制限のあるものであれば可能だが、規模の大きいものは無理だと思うし 現在の関わりで十分ではないか コロナウイルス、インフルエン	地域貢献活動はベルマーク集め、雑巾の寄付を行う。 外部からの交流もその都度状況をみて出来る限り受け入れていく。

			<p>ザがまだ流行っているので、無理しなくても良いと思う。</p>	
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>コロナ感染対策をとった上で、できる限り地域の方との交流をはかる。</p>	<p>コロナ感染予防対策をし、山田祭り、季節ごとにドライブに出掛けた。 中学校職場体験受け入れた。</p>	<p>地域に出向いての暮らしを支えることは、相手側の実情を考えると難しい。 家にはなかなか連れ出すことはできないが、地域の行事、ドライブ等に出掛けることはとても良いことだと思う。</p>	<p>感染対策を考慮し、職場体験等の受け入れや地域の行事に出掛け、交流を図る。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議内での事例検討会は、継続的に行う。 委員の方々には、参加した地域活動の場で「眺望」の高齢者事業をアピールしていただく。</p>	<p>良い所は伝えているし、パンフレットも渡している。 地域活動の場で元気な方にはなかなか言い出せず切り出す事も難しい時もあった。</p>	<p>会議では定例の議題に終始し、地域の情報まで把握しにくい。 運営推進会議では、率直な意見が毎回出されており、改善につながっている。 各推進委員が活動の場で、「眺望」をアピールする機会や状況はあまりない。</p>	<p>眺望アピールではなく、家族、近所の介護に関する悩み等を聞いた場合に介護について話をする。 委員と一緒に地域貢献活動に参加する。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>ハザードマップの避難経路、避難場所を随時確認する。防災・災害対策を継続して行う。</p>	<p>防災訓練を行った。 避難場所の確認は、11月中には把握出来た。</p>	<p>防災訓練は回数を重ねることが大事だと思う。 防災訓練は計画的に必要。 災害の規模にもよるが、対応の準備はまず、水、暖房、食料、トイレなど日常最低限の物資の確保、人的対応かと思います。</p>	<p>年間計画の防災訓練の実施。 災害発生時に必要な備品の見直し、点検を行う。</p>